

## ■みちのく自然共生園とは

東北地方のきびしい自然と人との共生によって育まれた文化や、里地特有の自然を体験し、楽しみながら学ぶことができる施設です。再生された里の田園風景、居久根、草原、湿地、牧野など、みちのくらしい動植物が豊かな里の自然を、散策しながら楽しめます。

## ■見どころ紹介

### ～里地の自然～

#### 耕作地・水田・居久根

畑では、ソバや麦、青菜や蕪、豆類など東北地方の食文化にちなんだ作物を栽培しています。春は青麦が風にそよぎ、夏はソバの白い花が一面を覆い、秋は柿や栗が実ります。懐かしさとぬくもりのある、みちのくらしい里地の風景が楽しめます。

「居久根」とは屋敷林のことで、季節風を防ぎ、落葉や焚付けを採るための暮らしに欠かせない林でした。居久根に植えられた、田打ち桜とよばれるコブシが咲くころになると、その年の農作業が始まります。

### ～草原の自然～

#### 展望野草園・サクラソウ園・放牧区

草が飼料や肥料として必需品であった時代には、里地に草原が維持されていました。草が利用されなくなると草原もなくなり、今では草原特有の動植物が絶滅に瀕しています。ここでは、かつて人の手で維持されていた草原（半自然草原）の再生を目指し、オキナグサ、サクラソウ、カワラナデシコ、キキョウなど、50種類ほどの野草を、この地域のタネから育てて増やしています。

放牧区ではヤギやヒツジを放牧し、ふれあい体験ができます。初夏に刈る羊毛は手仕事体験に利用しています。かつて草刈の時に使用した草泊りを復元してあります。

### ～水辺の自然～

#### 湿生花園・ヨシ原・スゲ原・ヤナギ湿地林・小川

湿生花園では再生した湿地で、野草をタネから育てています。初夏から秋にかけて、カキツバタ、チダケサシ、クサレダマ、ヌマトラノオ、ミソハギ、コバギボウシ、サワギキョウ、オオニガナ等が咲きます。ヘイケホタルも生息するようになりました。

ヨシ原やスゲ原、ヤナギ湿地林は、かつての水田の跡地です。初夏のヨシ原ではオオヨシキリが子育てを行います。園内を流れる小川ではアブラハヤやスナヤツメ等の魚類、カワトンボ等の水生動物が生息しています。

### ～樹林の自然～

#### コナラ林・崖線樹林・ヤナギ林

コナラ林や崖線樹林では、下刈を行って明るい雑木林を再生し、樹林特有の野草を育成しています。春にはルリソウ、クリンソウ、初夏にはニッコウキスゲ、夏にはソバナ、秋にはキバナアキギリ等、四季折々の野草が咲きます。野草の豊かな雑木林の散策が楽しめます。



..... : 野草探勝おすすめコース (1.6 km)

..... : ヤギ、羊ふれあい体験場所へのコース (230m)



### ～展望野草園からの蔵王の眺め～

快晴の日には、展望野草園の頂きから屏風岳、熊野岳など蔵王の山々の眺めが楽しめます。

また、東側には、北川を挟んでコナラの雑木林で覆われた里山地区や、こんもりとした釜房山が望めます。里山地区へは、ドックランの傍の橋を渡って、歩いて行けます。展望野草園から里山地区小野分校まで、約 1.9 km です。



### ～体験施設～

#### 情報館

自然共生園の受付です。園内の見所や草花を、展示や映像などで紹介しています。草を素材としたクラフト等の体験ができるほか、イベント情報、野の花情報、生き物情報なども発信しています。随時、自然再生や農園活動、手仕事活動のボランティアさんを募集しています。

#### 知恵体験舎

板の間や縁側で、のんびりと休憩できます。体験イベントでは、農作業体験や、ここで採れた作物を使った食品加工体験など、みちのくの自然との共生が育んだ暮らしの知恵が学べます。

●お問い合わせ先：みちのく公園みちのく自然共生園

TEL 0224-84-5991 (代表)

〒989-1505

宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松 53-9

<http://www.michinoku-park.info/wp/>



## 今日はここを観てみよう！

### ■草原の野の花

#### オキナグサ（位置E）

キンポウゲ科の多年草で、草原に生えます。草地の減少や盗掘によって幻の野草となっていました。白い毛の実を白髪に見立てて、この名前があります。宮沢賢治もこの野の花を愛し、「うすのしゅげ」の別名とともに童話の中で美しく語られています。4月上旬から咲き始め、5月にはタンポポのような白い綿毛のタネを飛ばします。ごぼうのような根を深く伸ばし、乾いた場所でも育ちます。タネを蒔いて殖やし、東北地方では最大級の群生地となりました。



#### カニツリグサ（位置G）

繊細な穂をつけるイネ科植物です。この時期、展望野草園の草原を広く覆い、少し光沢がある穂が風にそよぎます。



## 今日はここを観てみよう！

### 草原の野の花

#### サクラソウ（位置D・5月上旬）

サクラソウ科の多年草で、草地やカシワ等の疎林等に生えます。カシワは芽吹きが遅いので、地面のサクラソウは春の光を受けることができます。草原の減少や盗掘によって減少し、宮城県や国の絶滅危惧種に指定されています。ここでは、畔などに細々と生えていたサクラソウを、ボランティアさんが中心となって守り殖やしています。



#### キンポウゲ（位置A）

日当たりの良いやや湿った草原や畔などに生える多年草です。光沢のある黄色の花が特徴です。毒草で家畜が食べ残すため、放牧地で群生することがあります。別名はウマノアシガタといいます。



## 今日はここを観てみよう！

### ■林の野の花

#### ルリソウ（位置F）

ムラサキ科の多年草で、勿忘草の仲間です。本州中部以北のやや湿った樹林に生えます。花の色は桃色から青色まで変化があります。宮城県の準絶滅危惧種に指定されています。



#### クリンソウ（位置F、D）

サクラソウ科の多年草で湿地や林内の水辺に生えます。花の咲き方を、お寺の屋根の先端に付いている「丸輪」に見立てました。宮城県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



#### ラショウモンカズラ（位置F）

シソ科の多年草で、林内のやや湿った場所に生えます。花の姿を、渡辺綱が羅生門で切り落とした鬼女の腕に見立てました。



## 今日はここを観てみよう！

### ■林の野の花

#### アカネスミレ（位置F・5月上旬）

草原や明るい樹林に生えるスミレです。全体に微毛があります。赤紫の花の色が名前の由来です。



#### サクラスミレ（位置F・5月上旬）

草原や明るい樹林に生えるスミレで、日本で一番大きな花をつけるので、「スミレの女王」と呼ばれています。花卉の縁が桜のように凹みます。



#### ヒメシャガ（位置H・5月中下旬）

乾いた崖などに生えるアヤメ科の多年草です。環境省、宮城県の準絶滅危惧種に指定されています。よく似たシャガは常緑性でやや湿った場所に生えます。



## 今日はここを観てみよう！

### ■水辺の自然

#### ミツガシワ（位置B・5月上旬）

ミツガシワ科の多年草で、寒冷地の湿地などに生えます。カシワのような大きな三つ葉が名の由来となっています。太い茎を水中に伸ばして、広がります。



#### サワオグルマ（位置C）

湿地に生えるキク科の多年草です。しばしば一面に群生し、湿地を黄色に染めます。若い葉には白い綿毛があり、山菜に利用する地域もあります。



#### カキツバタ（位置B・5月中下旬）

アヤメ科の多年草で、水辺に生えます。アヤメも同じ仲間ですが、乾いた草原に生えます。5月中旬から下旬が見頃で、遅れてアヤメ、ノハナショウブが咲き始めます。

